

テーマ：雇用関連統計（2007年7月） ～予想を上回る失業率の改善テンポ～

発表日：2007年8月31日（金）

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 結城 良彦
TEL：03-5221-4573

要旨

- 7月の失業率は先月から0.1ポイント改善し、3.6%となった。季調値でみた就業者数・雇員数は先月から減少したが、失業者数の低下は続いている。雇用環境は引き続き良好な状態にあるといえる。
- 4月以降、失業率の改善テンポは早まっている。企業が採用に積極的になっていることが背景にあるとみられ、年齢階級別では、特に若年層や高齢層における失業率の改善が目立っている。
- 労働市場に労働者が回帰してきていることから、今後、失業率は次第に改善テンポを和らげてくると予想される。ただし、これは雇用環境の悪化を示すものではない。企業の人手不足を背景に、緩やかな雇用環境の改善は今後も続く見込みである。

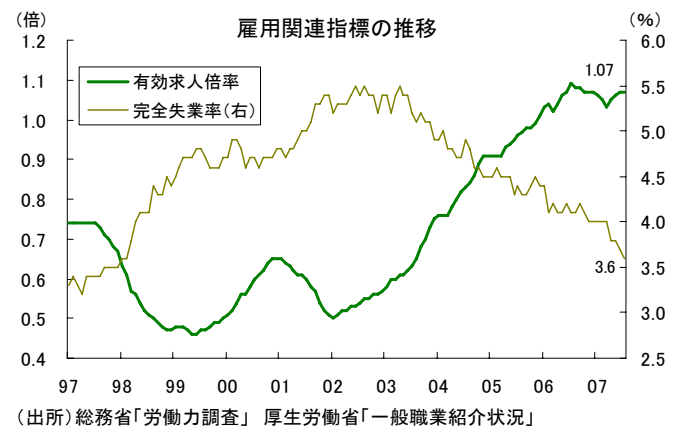
(単位：%、万人、倍)

		労働力調査								一般職業紹介状況			
		労働力人口		就業者数		雇員数		失業者数		完全失業率	有効求人倍率	新規求人倍率	新規求人
		季調値	前年差	季調値	前年差	季調値	前年差	季調値	前年差	季調値	季調値	季調値	前期比
05	8月	6,644	▲21	6,355	10	5,386	15	288	▲30	4.3	0.97	1.49	0.7
	9月	6,675	43	6,390	68	5,440	101	284	▲24	4.3	0.98	1.49	0.1
	10月	6,673	50	6,376	57	5,442	95	296	▲7	4.4	0.98	1.45	▲0.6
	11月	6,647	25	6,347	22	5,409	50	300	▲2	4.5	0.99	1.51	1.0
	12月	6,645	4	6,352	9	5,417	56	291	▲5	4.4	1.01	1.57	0.6
06	1月	6,656	4	6,364	8	5,447	92	292	▲4	4.4	1.03	1.56	0.9
	2月	6,660	17	6,385	48	5,476	126	276	▲31	4.1	1.04	1.56	0.6
	3月	6,646	24	6,372	48	5,469	111	276	▲24	4.2	1.02	1.51	▲3.6
	4月	6,633	▲10	6,364	16	5,456	69	271	▲26	4.1	1.04	1.53	0.8
	5月	6,650	▲17	6,380	13	5,473	78	271	▲30	4.1	1.06	1.61	4.5
	6月	6,658	19	6,376	20	5,484	101	281	▲2	4.2	1.07	1.58	▲1.6
	7月	6,643	▲11	6,372	11	5,460	73	271	▲21	4.1	1.09	1.58	1.3
	8月	6,653	10	6,377	22	5,469	81	276	▲12	4.1	1.08	1.60	0.1
	9月	6,662	▲11	6,382	▲6	5,479	40	279	▲5	4.2	1.08	1.57	▲2.1
	10月	6,677	5	6,404	28	5,485	45	273	▲23	4.1	1.07	1.53	▲3.2
	11月	6,683	33	6,416	66	5,490	80	265	▲33	4.0	1.07	1.60	3.3
	12月	6,665	18	6,394	39	5,473	53	269	▲21	4.0	1.07	1.60	▲0.7
07	1月	6,636	▲19	6,373	9	5,496	48	264	▲28	4.0	1.06	1.51	▲2.3
	2月	6,683	23	6,415	30	5,535	58	268	▲7	4.0	1.05	1.51	2.1
	3月	6,683	35	6,416	43	5,530	60	269	▲8	4.0	1.03	1.50	▲4.7
	4月	6,692	60	6,439	76	5,540	85	256	▲16	3.8	1.05	1.58	0.7
	5月	6,680	32	6,429	51	5,516	47	252	▲19	3.8	1.06	1.54	2.1
	6月	6,675	16	6,428	53	5,532	48	244	▲37	3.7	1.07	1.54	▲0.9
	7月	6,646	3	6,409	37	5,514	53	236	▲34	3.6	1.07	1.55	▲1.1

(出所)総務省「労働力調査」、厚生労働省「一般職業紹介状況」

○ 失業率は2ヶ月連続で改善し3.6%

7月の完全失業率は3.6%となり、先月から0.1ポイント改善した。失業率の低下は2ヶ月連続で、雇用環境が引き続き良好な状態にあることが確認できる結果であった。季節調整値でみると、就業者数は前月比▲0.3%、雇員数は同▲0.3%と共に先月から低下したものの、失業者数には同▲3.3%と改善がみられた。また、同時に公表された有効求人倍率は先月から横ばいの1.07倍、新規求人倍率は先月から0.01ポイント改善

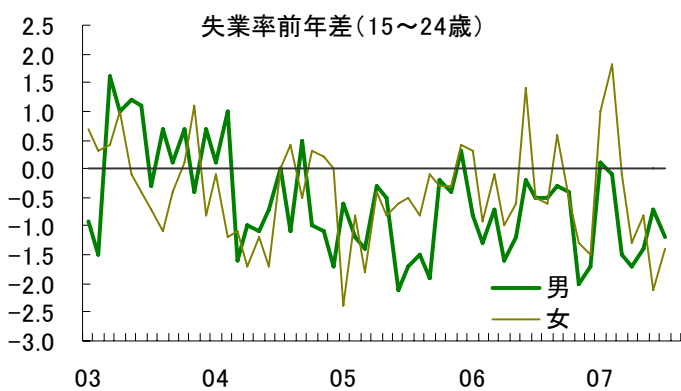


の1.55倍であった。

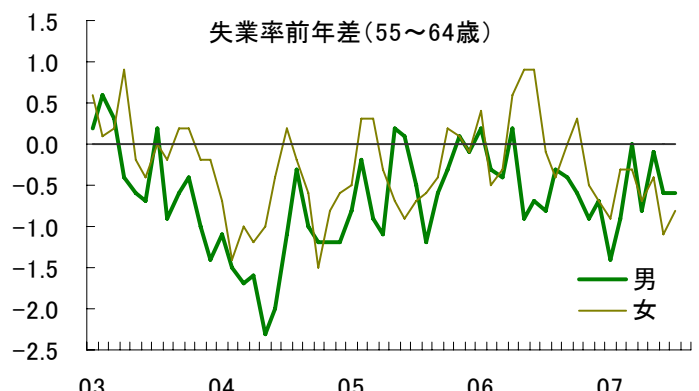
○ 若年層や高齢層における失業率低下が顕著

失業率は昨年度末まで3%台を目前に足踏み状態が続いていたが、4月に3%台に突入して以降、改善テンポが早まっている。7月については就業者数・雇用者数が共に先月から減少したものの、増加トレンドは続いており、失業者数の低下に繋がっている。この背景には企業が人手不足感を強めており、積極的に採用を進めていることがある。新卒はもちろんのこと、高いスキルや豊富な経験を持つ高齢層や、不景気時代に企業が採用を手控たために不足している若手の中堅層など、採用の枠は広がりを見せている。雇用が流動化してきたため中途者を採りやすくなっていることや、高齢化に伴い再雇用制度などのしくみが整えられてきたことも、こうした動きを後押ししているようだ。

実際に年齢階級別の失業率の推移を見てみると、若年層や高齢層における失業率が目立って低下してきていることが確認できる。このところの失業率の低下ペースの上昇は、特にこうした若年層や高齢層の失業率が改善してきたという面が大きいと思われる。7月については、15～24歳における失業率が前年差▲1.2% p t（男性）、55～64歳における失業率が同▲0.6% p t（男性）と改善した。



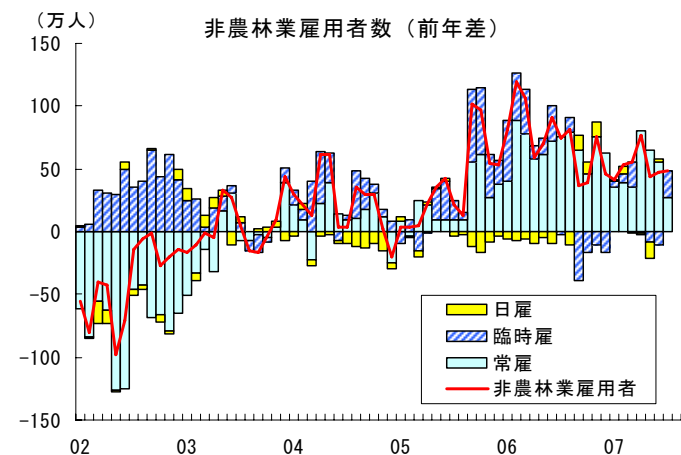
(出所)総務省「労働力調査」



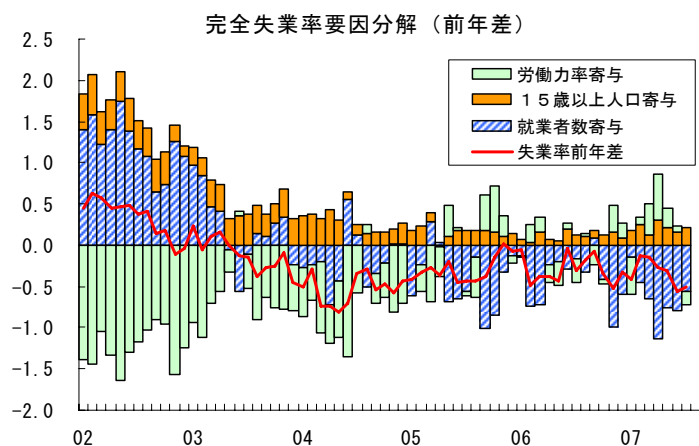
(出所)総務省「労働力調査」

○ 失業率の改善テンポは次第に緩やかに

景気回復を背景に労働市場に回帰する労働者が増加してきていることから、今後、失業率は下がりにくい状態になると予想され、足元の失業率の改善テンポは次第に和らいでくるだろう。もっとも、こうした動きは雇用環境の悪化を示すものではない。景気回復を背景とした企業の人手不足感は当面続く見込みで、今後も雇用環境は緩やかな改善が続くだろう。労働需給がさらに引き締まってくると、足元で低迷している賃金にも徐々に上昇圧力が加かってくると考えられる。



(出所)総務省「労働力調査」



(出所)総務省「労働力調査」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。